

令和4年度徳島県公立高等学校入学学力検査
集計結果について

徳島県教育委員会教育創生課

令和 4 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査（特色選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（特色選抜）は、検査Ⅰ（国語、社会、英語）、検査Ⅱ（数学、理科、英語）の2部構成とし、5教科について実施した。

配点は、各教科40点満点で、学力検査の総点は、200点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な学力の定着の程度を中心にみることに配慮した。

5教科総合の平均点は、100点満点に換算して、51.5点であり、昨年度より4.3点低かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

令和4年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(特色選抜)成績表

受検者総数 737名

年度 教科	令和4年度		令和3 年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	令和3年度		過去5 か年の 平均点
	平均点 (40点満点)	標準偏差			平均点 (40点満点)	標準偏差	
国語	24.9	7.3	- 0.3	+ 2.2	25.2	7.2	22.7
数学	19.1	10.5	- 5.3	- 4.2	24.4	10.3	23.3
社会	19.9	10.3	- 4.4	- 1.0	24.3	9.4	20.9
理科	19.0	9.1	- 1.3	- 2.1	20.3	8.8	21.1
英語	20.1	10.1	+ 2.9	- 1.0	17.2	10.4	21.1
5教科総合	20.6	8.1	- 1.7	- 1.3	22.3	7.6	21.9

年度 教科	平均点						
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
国語	22.3	19.4	23.0	23.8	25.2	24.9	62.3%
数学	24.8	23.9	24.1	19.2	24.4	19.1	47.8%
社会	20.1	18.3	23.2	18.7	24.3	19.9	49.8%
理科	23.8	18.3	23.6	19.7	20.3	19.0	47.5%
英語	21.8	22.0	23.5	21.1	17.2	20.1	50.3%
5教科総合	22.6	20.4	23.5	20.5	22.3	20.6	51.5%

令和 4 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査の成績結果（一般選抜）の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（一般選抜）は、国語、数学、社会、理科、英語の 5 教科について実施した。

配点は、各教科 100 点満点で、学力検査の総点は、500 点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度や、思考力・判断力・表現力等をみることができ問題となるように配慮した。様々な思考過程により解答を導くことができる問題や多様な表現力をみる問題、日常生活に関連させた事項を題材とした問題、知識・技能を活用して課題を解決する問題も作成した。

5 教科総合の平均点は、100 点満点に換算して、54.0 点であり、昨年度より 1.1 点低く、過去 5 か年の平均点より 1.0 点低かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

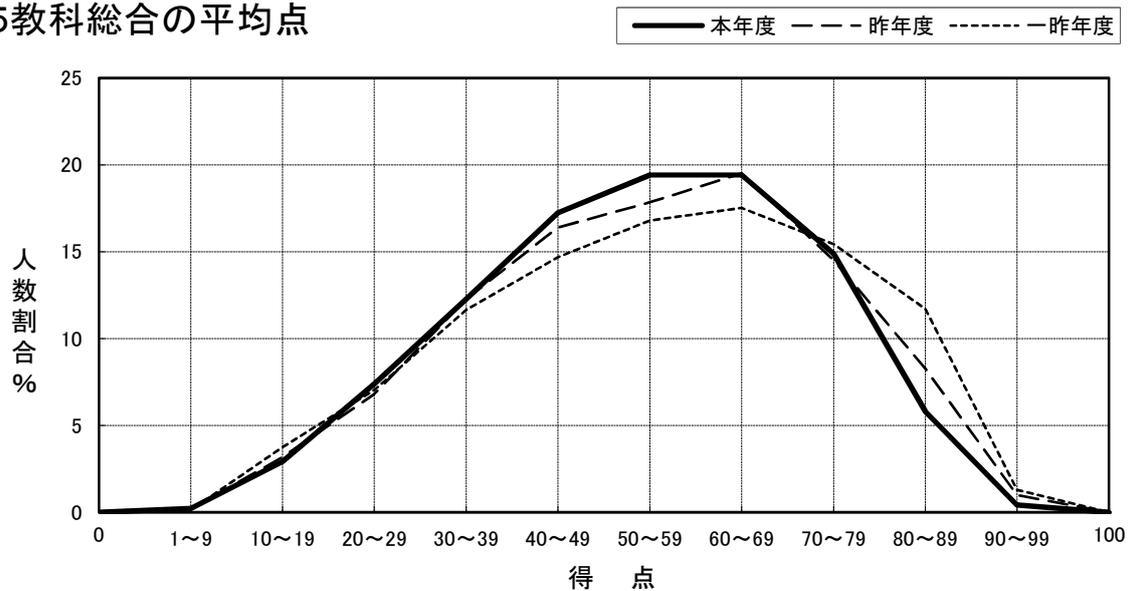
令和4年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績表

受検者総数 4495名

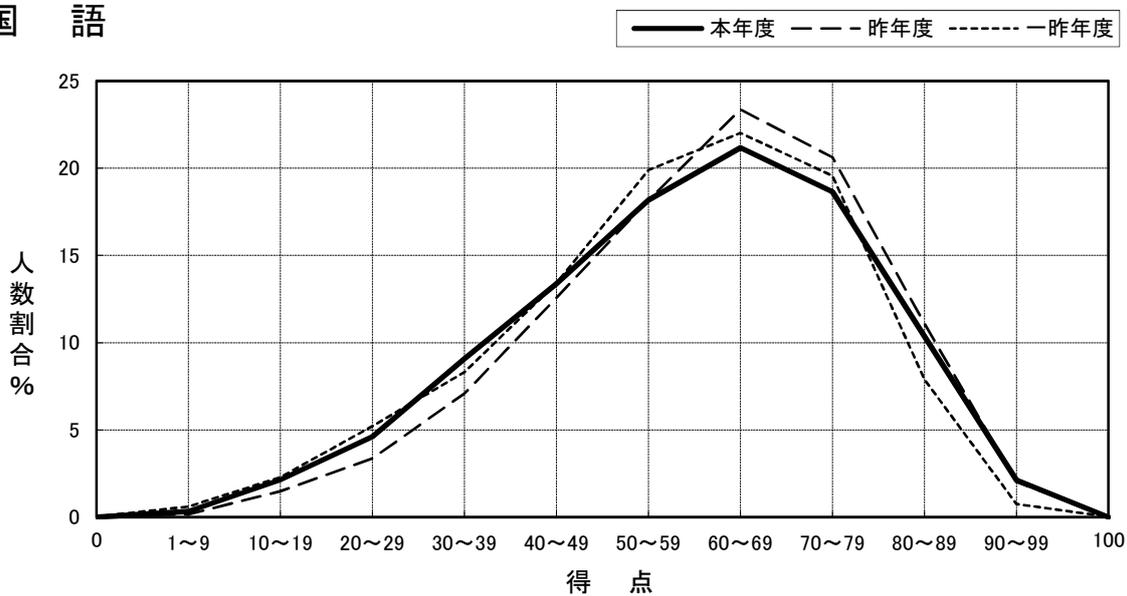
年度 教科	令和4年度		令和3 年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	令和3年度		過去5 か年の 平均点
	平均点	標準偏差			平均点	標準偏差	
国語	58.9	18.3	- 1.9	- 1.5	60.8	17.2	60.4
数学	42.9	19.2	- 4.0	- 2.3	46.9	21.0	45.2
社会	60.2	20.6	+ 2.6	+ 4.0	57.6	23.1	56.2
理科	55.2	19.7	- 2.8	- 1.1	58.0	20.0	56.3
英語	53.0	20.8	+ 0.7	- 4.0	52.3	21.7	57.0
5教科総合	54.0	17.7	- 1.1	- 1.0	55.1	18.5	55.0

年度 教科	平均点					
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
国語	66.9	54.0	62.6	57.5	60.8	58.9
数学	46.6	40.4	46.1	46.0	46.9	42.9
社会	54.2	53.3	54.8	61.2	57.6	60.2
理科	56.3	51.9	54.5	60.6	58.0	55.2
英語	60.6	59.0	57.4	55.8	52.3	53.0
5教科総合	56.9	51.7	55.1	56.3	55.1	54.0

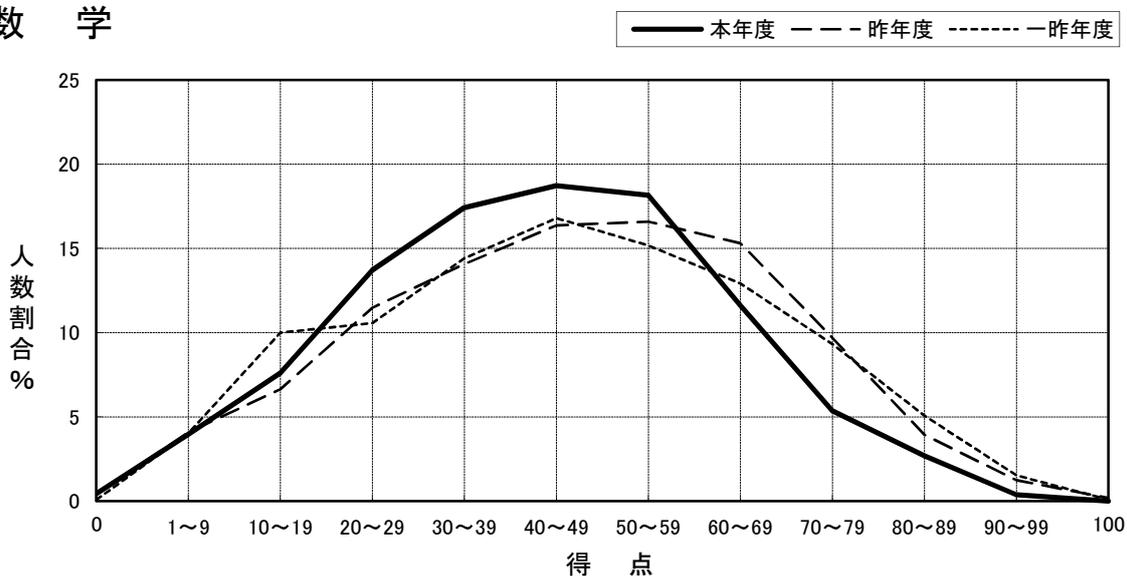
5教科総合の平均点



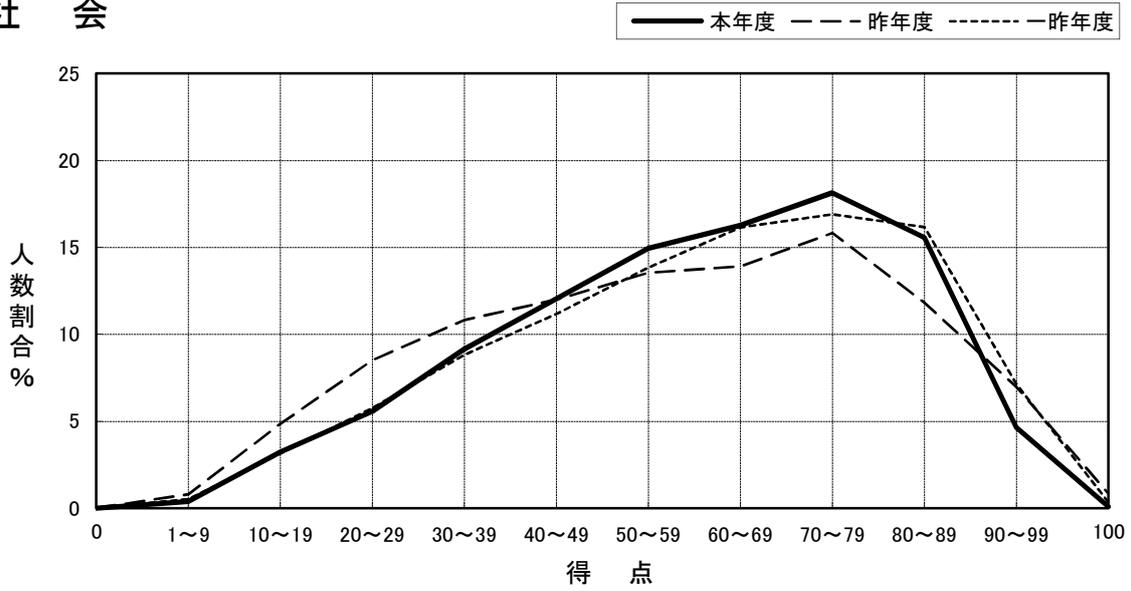
国語



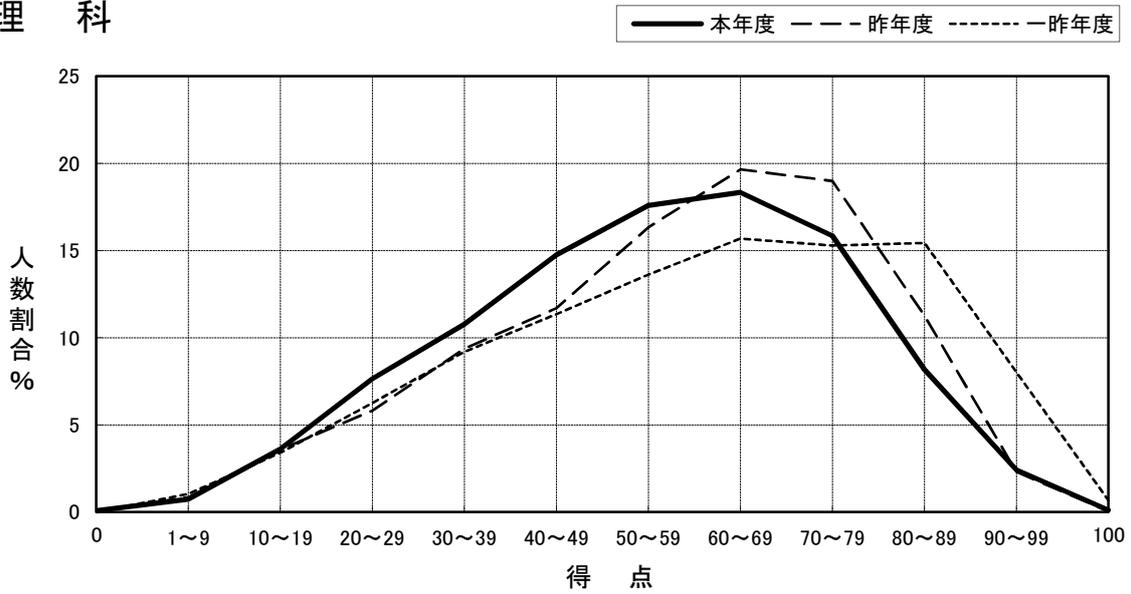
数学



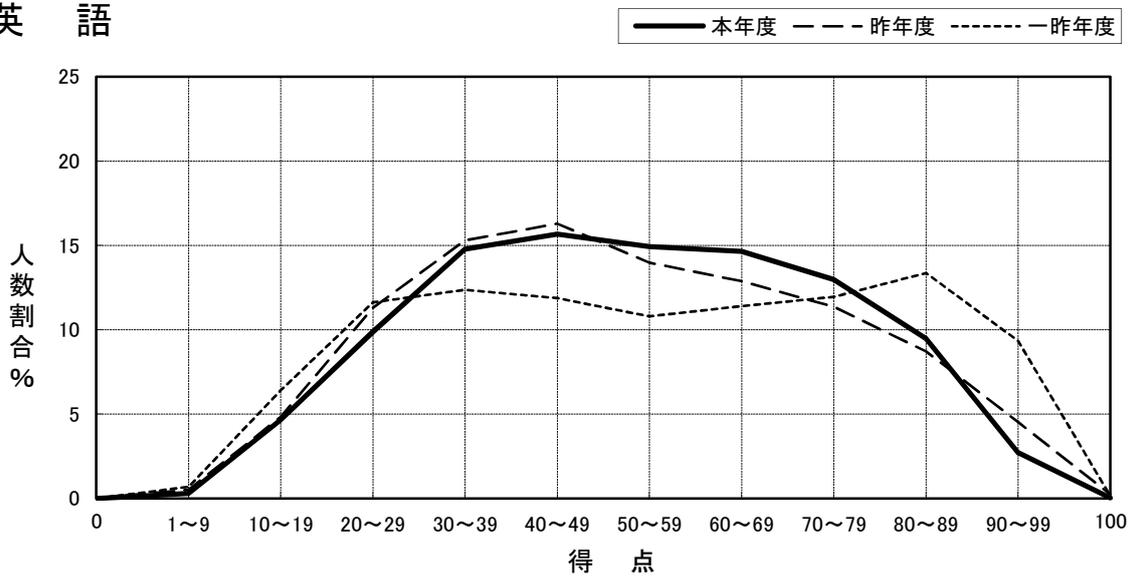
社 会



理 科



英 語



令和4年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	<p>平均点は58.9点で、過去5か年の平均点に比べて1.5点低く、昨年度より1.9点低い点数であった。</p> <p>漢字、語句等の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は、概ね良好な結果であった。一方、文学的文章や複数の資料をもとに説明的文章を読解する問題について、ともに本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿って記述する問題の誤答が多かった。</p>
数学	<p>平均点は42.9点で、過去5か年の平均点に比べて2.3点低く、昨年度より4.0点低い点数であった。</p> <p>「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、日常生活における事象を題材として数学に関連付け立式したりグラフを考えたりして考察する問題、思考力を必要とする関数や図形の問題においては誤答や無解答が多かった。</p>
社会	<p>平均点は60.2点で、過去5か年の平均点に比べて4.0点高く、昨年度より2.6点高い点数であった。</p> <p>「墾田永年私財法」や「地熱発電」など、単に知識を再現する問題は良好な結果であった。一方、温帯に属する都市を選ぶ問題や、小選挙区制のしくみに触れて選挙の問題点を書く問題などは誤答が多かった。また、写真や説明文を読み、「スクール」を答える問題や、正長の土一揆に関する言葉を答える問題、明治期の軽工業における産業革命について知識を関連付けながら考察し、記述する問題については、無解答が多かった。</p>
理科	<p>平均点は55.2点で、過去5か年の平均点に比べて1.1点低く、昨年度より2.8点低い点数であった。</p> <p>「分解者」、「感覚と運動のしくみ」、「非電解質」、「光の屈折」、「示相化石」、「凝灰岩」など、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、実験や観察に関する説明を理解して実験結果や観察結果を考察し、作図をしたり、文で表したり、数値を求めたりする問題は誤答が多かった。</p>
英語	<p>平均点は53.0点で、過去5か年の平均点に比べて4.0点低く、昨年度より0.7点高い点数であった。</p> <p>リスニング問題は、全般的に良好な結果であった。また、文脈から判断し空所に入る適語を選ぶ問題や、単語を並べ替えて文を完成させる問題は良好な結果であった。一方、まとまった分量の英語を聞いて、一番伝えたいことを表している英文を選ぶリスニング問題や、文脈から判断し、自然なやり取りになるように英文を完成させる問題、対話が成り立つように空所に英語を入れて英文を完成させる問題などは、誤答や無解答が多かった。</p>

徳島県公立高等学校普通科の通学区域見直しに伴う
令和4年度入学者選抜結果の概要

1 令和4年度入学者選抜における通学区域制

通学区域制については、令和3年度入学者選抜からの変更はなかった。

【参考】令和3年度入学者選抜における変更点

- (1) 第3学区（徳島市内）において、
 - ・ 城東高等学校について、募集定員の12%以内であった流入率を廃止し、通学区域を全県一区とした。（城ノ内高等学校は募集停止）
 - ・ 城南，城北及び徳島北高等学校について、募集定員の10%以内であった流入率を12%以内に引き上げた。
 - ・ 徳島市立高等学校については、所管する徳島市教育委員会の意向を踏まえ、募集定員の8%以内の流入率を維持した。
- (2) 第1学区（県南部）において、
学区内総募集定員の15%であった流入率を20%以内に引き上げた。
- (3) 第2学区（県北部～県西部）において、
学区内総募集定員の10%であった流入率を12%以内に引き上げた。

2 結果の概要（城東高等学校を全県一区とする前年の令和2年度入学者選抜との比較）

- (1) 通学区域外から第3学区の普通科（城南・城北・徳島北・徳島市立）に合格した生徒数は、令和2年度より20人増加した。
※ 令和2年度 93人 → 令和4年度 113人
- (2) 徳島市内の公立中学校から徳島市外の普通科に合格した生徒数は、令和2年度より12人減少した。
※ 令和2年度 95人 → 令和4年度 83人
- (3) 第3学区普通科全体における学区内外別合格者下位5人の平均点の差は、令和2年度より11.6点縮小した。
※ 令和2年度 92.6点 → 令和4年度 81.0点

各教科の大問別解答状況の概要と授業改善の視点

<p style="text-align: center;">国 語</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>一 漢字、文法、行書等、基礎的な知識に関する問題は、一部音読みの正答率が低いものの、概ね良好である。</p> <p>二 文学的文章の読解に関する問題については、本文の内容を踏まえて文章中から言葉を抜き出す問題の正答率が高く、本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる記述問題の正答率が低い。</p> <p>三 複数の資料をもとに説明的文章を読解する問題については、設問の意図を捉えて文章の中から適切な言葉を抜き出す問題の正答率が高く、本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿って書く問題の無解答率が高い。</p> <p>四 古典については、漢文の基礎的な知識に関する問題に対してやや課題がみられ、漢詩の鑑賞に関する問題については、概ね良好である。</p> <p>五 資料をもとに作文を書く問題については、昨年度と比べて正答率が高い。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>一 漢字の読み書き、語句等の基礎的な知識は、日常の言語生活と結び付けたうえで定着を図ることが必要である。</p> <p>二 登場人物の言動の意味などについて考えたり、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などに着目して読み、描写をもとに捉える力の育成が必要である。</p> <p>三 主題を読み取る力、複数の資料をもとに言葉を整理して理解を深め、記述する力の育成が必要である。言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むことがなほ一層望まれる。</p> <p>四 古典に親しむ機会を多くもたせるとともに、古典に表れたものの見方や考え方に触れて、作者の思いを想像する力が必要である。</p> <p>五 様々な資料などから手掛かりを得て、自分の考えを説明したり、記述したりする機会を多くもたせることが必要である。</p>
<p style="text-align: center;">数 学</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。</p> <p>1 二次方程式を解く問題や確率を求める問題、条件を満たす円の中心を作図する問題の正答率が低かった。</p> <p>2 図形の問題解決に因数分解の考え方をを用いる問題の正答率が低かった。</p> <p>3 日常生活における事象を題材として数学に関連付けた問題であったが、2つのグラフの交点の x 座標を求める問題やグラフを考えて条件に合う答えを求める問題は誤答や無解答が多かった。</p> <p>4 三平方の定理を用いて線分の長さを求める問題や与えられた条件を満たす点の x 座標を求める問題の正答率が低かった。</p> <p>5 線分の長さを求める問題や2つの図形の面積の比を求める問題の正答率が低かった。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1 二次方程式や確率に関する深い理解や思考力・表現力を育成する必要がある。</p> <p>2 多様な方法で問題に取り組んだり、領域をまたいで知識や技能を活用したりする力を育成することが大切である。</p> <p>3 全国学力調査やステップアップテストなどを活用し、日常生活と関連した数学の問題などを通し、数学に対する興味・関心を一層高めるとともに、問題文を正確に読み取り、必要な情報を整理し、論理的に考える力を育成する指導が必要である。また、計算やグラフから得られた結果を事象に即して吟味するなどの姿勢を育成することが大切である。</p> <p>4 問題文から状況を読み取り、数学的に処理することができるような思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。</p> <p>5 基礎的・基本的な内容を組み合わせ、問題を解決する思考力の育成が必要である。</p>
<p style="text-align: center;">社 会</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1～5 「墾田永年私財法」や「地熱発電」など、単に知識を再現する問題は正答率が高かった。一方、温帯に属する都市を選ぶ問題や、小選挙区制のしくみに触れて選挙の問題点を書く問題などは正答率が低かった。また、写真や説明文を読み、「スクール」を答える問題や、正長の土一揆に関する問題、明治期の軽工業における産業革命について考察し、記述する問題については、無解答が多かった。</p> <p>6 「環境」をテーマとする学習に関わる総合問題においては、室町時代の農民の暮らしや地方公共団体の財源に関する問題で良好な結果となった。一方、法律案の議決に関わる問題は正答率がやや低かった。また、瀬戸内の降水量が少雨である理由について記述する問題では、無解答率が高かった。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1～5 基礎的・基本的な知識の習得が不十分な生徒に対しては、教科書の重要語句をしっかりと理解させることが必要である。また、社会的な事象について論理的に考え表現する力や、資料から情報を正確に読み取り考察する力など様々な角度から思考力・表現力・判断力等の育成を図ることが重要である。そのためには、読み取り、解釈、表現の過程を重視した授業づくりが求められる。</p> <p>6 各分野で学習した成果を関連付け、身近な話題や現代社会のようすなどを多面的・多角的にアプローチできる総合的な力の育成を図ることが重要である。そのためには、日頃から単元や分野をこえて必要な時に学習成果を活用できるよう、学習の積み重ねを大切にし、知識を関連付ける授業づくりが求められる。</p>
<p style="text-align: center;">理 科</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1 基礎的・基本的な内容に関する問題の正答率は高かった。一方で、基本的な内容でも用語や文を書く問題の誤答が多かった。</p> <p>2 刺激や反応のしくみに関する問題の正答率は高かったが、反射のしくみを文で説明する問題の正答率はやや低かった。</p> <p>3 非電解質についての問題の正答率は高かったが、実験結果から言えることを書く問題や計算問題の正答率は低く、無解答率が高かった。</p> <p>4 凸レンズによりできる像に関する問題についての正答率は高かったが、焦点距離を作図により求める問題の正答率は低かった。</p> <p>5 基礎的・基本的な内容に関する問題の正答率は高かったが、堆積物から海の深さの変化を考察して文で説明したり、凝灰岩層の広がりやを考察し柱状図としてかく問題の正答率は低かった。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1 観察・実験を通じて、基礎的・基本的な内容を、生活に結びついた知識・技能として定着させることが大切である。</p> <p>2 しくみについて深く理解させ、生活とのつながりについて考えるとともに、内容を論理的に説明できるようにすることが大切である。</p> <p>3 実験を行う中で、実験の目的や操作の意図、結果や考察などを文章で記述させるなどの言語活動を充実させることが大切である。</p> <p>4 実験や現象について、意味を考えながら作図を行い、科学的に考察する活動を行うことが大切である。</p> <p>5 観察・実験から得られた結果を基礎的・基本的な内容と結びつけられるようにし、結果が何を表しているかを理解し、考察したことを適切に表現できるようにすることが大切である。</p>
<p style="text-align: center;">英 語</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1～3 全般的に良好な結果であったが、まとまった分量の英語を聞いて、その要点を捉える問題では誤答が多かった。</p> <p>4 全般的に良好な結果であった。</p> <p>5 対話が成り立つように、不足している語を補って、正しい語順で英文を完成させる問題では、正答率が低かった。</p> <p>6 本文中から抜き出した文を正しいところに入れる問題では誤答が多かった。また、質問に対する答えになるように、自分の意見等を書く自由英作文の問題では、正答率が低く、無解答が多かった。</p> <p>7 全般的に正答率が低かった。特に、英語の質問に対する応答文を英文1文で書く問題や、英文の内容に関連する対話文の空所に、適語を入れて文を完成させる問題や、文脈から判断し、空所に適語を入れる問題では正答率が低く、無解答が多かった。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1～3 日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明など、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を捉える力を育成する言語活動を取り入れることが望まれる。</p> <p>4 日常的な話題について話されたり書かれたりした内容を正確に理解するとともに、自らも適切に表現する力を育てる言語活動の工夫が望まれる。</p> <p>5 内容理解に留まらず、理解した内容をもとに主体的に考え、場面に応じて表現する力を育成する指導が望まれる。</p> <p>6 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や考えを伝え合う言語活動の実践を積み重ねることで、英語による自己表現の楽しさに気付かせる。また、求められている内容を、自分の思いが伝わるように書くことの指導が必要である。</p> <p>7 まとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会をできるだけたくさん設定するとともに、話の概要を捉えたり、書き手が伝えようとしている要点を把握する力を育成する必要がある。また、収集・整理した複数の情報を総合的に判断し、それにもとづく自分の意見・考えなどを表現する言語活動の工夫が望まれる。</p>